

令和7年度 中学生の「税についての作文」

柏税務署管内納税貯蓄組合連合会 ・ 柏税務署

柏税務署長賞

税金と環境のために私ができること



学校法人芝浦工業大学

芝浦工業大学柏中学校 第3学年 伊藤 来実

みなさんはペットボトルを捨てるときどうしていますか？ 私は、ラベルを燃えるごみに、キャップは保管し溜まったらスーパーに設置されている回収ボックスに、ボトルは中をすすいで潰し、地域で決まった収集日に資源ごみとして出している。言葉で聞くと細かくて煩わしいように感じるが、一人ひとりのこのひと手間が税金を無駄にしないことに繋がるのだ。私がそのことを知り、分別を積極的に始めたのはごみ拾いボランティア活動に参加したことがきっかけだった。街をきれいに保つためにごみを回収し処理するには多くの費用がかかり、それは税金だと学んだからだ。

ごみ分別をせず捨てると、ペットボトルは燃やすごみとして焼却施設に運ばれ焼却されてしまう。燃やすごみを処理するには、ごみの収集に関わる人件費、ごみ収集車の燃料費、ごみ焼却施設を動かす費用、修理費用など多くの税金が使われる。資源になるものが税金を使ってごみとして処理されるのは税金の無駄遣いに他ならない。

また、ペットボトルを専用のごみ箱に捨てるだけではごみ分別をしたことにはならない。回収されたペットボ

トルは、リサイクル工場でペットボトルとそれ以外の異物に分別し、その後、中に異物が入っていないかを確認する。異物が混ざっている場合はリサイクルしにくくなるので洗浄して取り除き、さらに、ラベルが付いたままのものは外す。これらの作業は全て清掃員が手作業でおこなっていると知り驚きを隠せなかった。正しい分別がされていないと、多くの人の手を介すこととなり不要な税金が使われてしまうのだ。

さらに、ポイ捨てや不適切な処理がされたペットボトルは、雨に流されて川に入り、海まで流れていく。一つくらい大丈夫だと思つて捨てたペットボトルが大量のごみとなり海を汚している。世界の海に存在しているプラスチックゴミは一億五千万トンとも言われ、そのうちの八割が陸からの川を伝って海に流れ出したものとされる。海の環境を守るため、限られた税金で海に浮遊するごみを清掃船で回収し、海岸に流れついたごみを一つ一つ手作業で拾っている。しかし、ごみの流出量の多さに回収が追い付かず多くのごみが海や海岸に残っているのが現状だ。ペットボトルは紙や木材と違い微生物によって分解されずに何百年も海に残り、海の環境に深刻な影響を及ぼし続けることになる。分解されないプラスチックは、海を漂ううちに小さく砕かれ、それを海の生物がエサと間違ひ食べてしまい、巡り巡って私たち人間の体の中にも入ってきている可能性がある。

ペットボトルを捨てる時の一人ひとりの心がけによって、海の環境と私たちの健康を守り、ごみを減らし、税金の無駄遣いを減らすことに繋がる。そして、削減された税金は、福祉や教育の分野をはじめ、幅広い分野で有効的に活用できると考える。